

【馬路村】
校務 DX 計画

1. 馬路村における校務 DX の取組について

令和2年度により校務支援システムを導入し、校務管理や教員同士の情報共有のデジタル化を推進し、教職員の資質・指導力の向上を図っている。

2. 「校務 DX チェックリスト事故点検結果」における課題等について

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省・令和5年11月実施。以下「自己点検」という。）を数値化した結果では、村内全校の平均値において、高知県全域の平均得点を下回っている。（本村平均 335.0 点、高知県全域 368.8 点、全国平均 363.0 点）上記の結果を踏まえ、特に以下の3点について、各学校と連携を図りながら校務 DX の 推進を図っていく必要がある。

(1) 学校と保護者間における情報共有

本村においては、教育委員会や学校から保護者への情報発信ツールとして連絡アプリを導入しており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にある。しかしながら、自己点検の結果によると、保護者と学校間の情報共有に関する回答では、「保護者への調査・アンケート等のクラウドサービスを用いて実施・集計しているか」、「保護者との日程調整をクラウドサービスを用いているか」といった回答について「全くしていない」と回答した割合が 50%を占める結果となっており、学校と保護者間における情報共有方法について課題が見られる。保護者連絡アプリの機能の周知や研修を設け、本課題についての取組を推進する。

(2) FAX・押印等制度・慣行の見直し

自己点検結果によると、村内 50%の学校が日常的に FAX を活用しており、また、村内 全校において保護者・外部とのやりとりで押印が必要な書類があると回答している。今後、FAX や押印等について、制度・慣行の見直しを検討していく。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提として、それに相応しいセキュリティレベルを確保する中で、データの利活用や個別最適な学びなど、新たな時代に相応しい教育 DX の基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、国の方向性や現状を的確に把握しながら、教育情報セキュリティポリシーの随時改正を行っていく予定である。

3. 今後の計画について

これらの現状を鑑み、今後は以下の項目について具体的な取組を設定し、重点的に校務 DX を推進する。

○クラウドサービスの拡充

- ・校務等におけるクラウドサービス活用についての情報提供
- ・情報交換のためのポータルサイト等の情報提供

○FAX・押印の見直しと校務支援システムへの手入力作業の一掃

- ・FAX・押印に関する現状把握及び廃止に向けた検討
- ・校務支援システムへの手入力作業の一掃に向けての働きかけ

○教育情報セキュリティポリシーの改訂

- ・国や県の方方向性や現状の把握
- ・教育情報セキュリティポリシーの改訂・周知

○校務における生成 AI の活用

- ・校務における生成 AI の活用についての情報提供